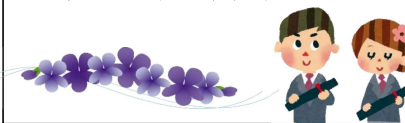


先月の活動 (3月)

日本語教室 3/1(M), 8, 15, 29(4回)



●日本語教室の(M)は定例ミーティング ●()内は参加者、または 参加予定者。敬称略

参加人数(3月)

	3/1	3/8	3/15	3/29
学習者	22	24	23	14
スタッフ	20	22	25	22

お知らせ

1月2日 賛助会員の中牟田由理子様より 100,000円のご寄付をいただきました


オリーブ総会&懇親会 2025年5月18日(日) 10:00~14:00
詳細はチラシでご確認を。多くの会員のご出席お待ちしております

オリーブが活動をするにあたって、関わりをもっている機関、施設があります。ここにまとめて紹介します。 ※印は毎年登録更新

- 草津市国際交流協会 (KIFA)
毎年施設使用料補助金をいただいています。
オリーブも KIFA の会員です (会費 2,000 円/年)
恩地が代表として KIFA の理事を努めています。
- 草津市立市民総合交流センター (キラリエ草津) ※
この施設は草津市まちづくり協働課所管、草津市コミュニティ事業団の運営です。オリーブはキラリエサポーターとして登録しています。キラリエサポーターは施設使用料の 1/2 減免があります。要件としてキラリエで開催されるイベント等に年 2 回以上の参加を求められます。
恩地が代表としてコミュニティ事業団の評議員をつとめています。
- 草津市ボランティアセンター (草津市社会福祉協議会) ※
毎年登録しています。登録するとボランティア保険に加入できます。
- 草津市教育委員会
社会教育関係団体に登録しています。3年ごとに更新。一部の市の施設の使用料の減免、免除があります。次回の更新は令和 9 年。
- びわこ日本語ネットワーク (BNN)
県内のボランティア日本語教室のネットワークで、長年スピーチ大会や指導者研修会を開催していましたが、昨年度から運営形態がかわり県を 4 ブロックにかけて、運営委員会を持ち回りでやることになりました。この先どうなるかまだ暗中模索中。

今月の活動予定 (4月)

日本語教室 4/5(M), 12, 19, 26 (4回)
4/6(日)お花見 京都府立植物園へ
4/12(土)会計監査 (小春・内田幸・杉山美)
4/14(月)KIFA 理事会 (恩地)
4/19(土)KIFA 総会 (恩地)

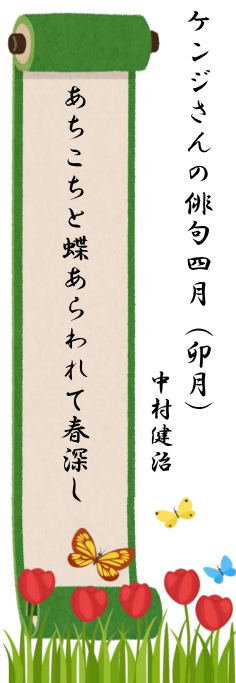


会員の動き(3月)


〈入会〉なし
〈休会〉永井章子、横山将大
〈退会〉なし
〈賛助会員〉渡辺真侑
※通常会員から変更

ケンジさんの俳句 四月 (卯月)

中村健浩



編集後記：天候不順が続いています。体調整えるのもたいへんです。私は体調不良でオリーブの花見に参加できなかった。残念 (MO)

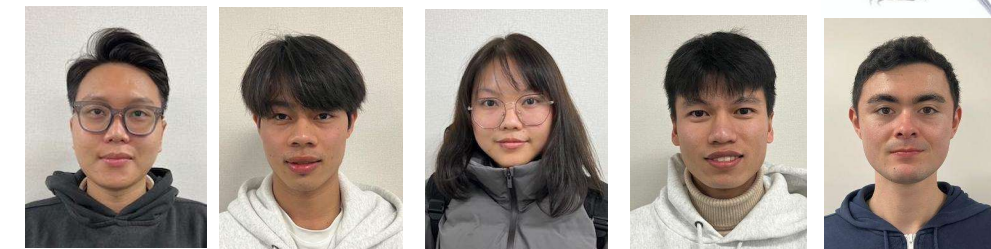


オリーブ通信

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu/>

2025年
4月号
2025. 4. 19 発行
第 276 号

あたらしい なかまをしょうかい します



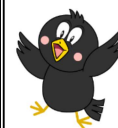
ドー チャン
グエン チュオン
(ベトナム)

チン カツツ トウアン
(ベトナム)

ニン ナンダー エイ
(ミャンマー)

ファム タイン タム
(ベトナム)

高橋 ルイス
(イギリス)



京都外国語大学日本語学科教授 中川良雄

中川先生のへんてこ日本語 174

かわいい

最近の若い人たち(殊に女性)は、「かわいい」を連発するきらいがある。パンダやネコなどの動物、赤ちゃん、幼稚園児、小学生、装身具や持ち物、話し言葉、しぐさ等、ありとあらゆるものが対象となる。

「ちいかわ」(小さくてかわいい)というキャラクターが人気を呼ぶのも、この傾向に乗じた、名「命名」である。

私が首にしていた、大学のロゴキャラクター入りネクタイまで、「かわいい」で片づけられてしまった。何もかわいく着飾ろうと思っただけで、身につけていたわけでもないのに。

先日道路を歩いていたら、女子高校生 2 人が上方を見上げながら「かわいい、かわいい」と言っていた。「何かいるんですか」と聞くと、木の上にカラスが巣を作っていて、そこに雛鳥がいると言う。つまりカラスの雛鳥がかわいいのだ。眺めていると、親鳥のほうも、子供が攻撃されるのではないかと動揺って、白いかたまりを落としていった。「きつしよ」。急いでその場から立ち去った。

「愛くるしい」とか、「可憐」「キュート」とか、ほかに言葉はないものかと探してみても、やはり「かわいい」以外の言葉が見つからない。

では「非かわいい」はどう表すのか。「きしよいか」「ださい」か。こちらでも言葉が見つからない。やはり「かわいい」には、癒しの世界観が含まれているようで、「かわいい」ものに憧れるのは、それだけ癒しを求めているからだろうか。かといって、「かわいい先生」と呼ばれるのも権威がなくなるようで、あまりいい気はしないが、「かわいい先生」よりはいいかな。



オリーブと若者たち

30年前のオリーブは20代、30代の若いスタッフがたくさんいて、エネルギーに満ちていました。県内の他の日本語教室から「羨ましい」の声をたくさんいただいております。しか〜し！いつ頃からか、新規に加入する若者の数が減ってきて、ちょっと寂しいな〜と感じていたところです。そこへ現れたのが日系ブラジル人の新井姉妹、なんと双子の中学生でした。今回、新井ダニエレと新井カリナの姉妹とお母さんの清美さんを交えていろいろお話を伺いました。



最年少スタッフは双子の姉妹



ダニエレとカリナは最年少スタッフとして、主にポルトガル語の通訳をしています。

まずはふたりの基本情報=3月に中学校を卒業し、ふたりとも見事受験合格、4月から高校生です。

ダニエレ：趣味はSNS。 将来の夢は弁護士。

カリナ：趣味は運動。将来はお金持ちになりたい。

ふたりがブラジルから日本に来たのは2019年の7月、夏休みに入るところで、栗東治田西小学校の4年生に編入しました。日本語はまったくわからなかったけれど、まず学童に入り、夏休みを過ごしました。言葉がわからなくても、そこは双子の強み、ふたりで遊ぶことができるから寂しくなかったみたい。そこにはブラジル人の子もいて、その子とも遊んでいました。



左からダニエレ、カリナ、清美さん

さて、2学期が始まるとふたりは同じクラスに入り、毎日3時間の日本語の授業も始まりました。学校にはポルトガル語のわかる先生もいて、この取り出し授業は5年生になるまで続いたそうです。

ふたりに日本の学校について聞いてみました。

ダニエレ：きれい。学童でも片付けとか、掃除とかちゃんとやって、整理整頓って感じ

カリナ：ブラジルとめっちゃ違う。学校の中に売店がない。給食があって、食堂がない。

ふたり：小学校のとき、いじめとかあったで。でも言い返した。(さすが！)

中学校はどうだった？ ふたり：栗東西中。日本人の友だちも増えて、部活は体操、楽しかった。

彼女たちがオリーブに来たのは、中2のときです。受験があるので国語の読み書きの勉強をしなくては、というときに、お母さんの清美さんが以前オリーブに在籍していたブラジル人のポンテス滝口さんにオリーブを紹介されたのがきっかけ。でも残念なことにオリーブは週1回、結局勉強は公文ですることにしました。それなら何故その後もずっとオリーブに通い続けるのか？

清美さんによると、「最近の若い子はスマホばかりでコミュニケーション力がなくなってるでしょ？社会に入っていくのに、ここで人間関係も学べるし、対人関係のプラスになりますよね」最後にオリーブについて

カリナ：できるだけ人の手伝いをしたい。

ダニエレ：楽しく勉強したい。

ふたり：オリーブ楽しい。新しい日本語も学べるし。

ダニエレ、カリナ、これからもよろしく！



3月29日、中学3年生の上松凌太郎さんが、オリーブを見学、また実際にスタッフとして活動を体験するために来られました。学校の課題で社会体験というのがあるということでした。いい体験ができたかな。



オリーブで見た外国人との交流 上松凌太郎

先日は、オリーブの社会体験をさせていただきありがとうございました。一回という短い時間でしたが、普段は体験できない、貴重な経験になったと思います。ここでは、オリーブの授業見学や仕事の手伝いといった実際の体験の内容と、それから得た学び、感想を書きたいと思います。

まずは受付の仕事です。オリーブでは、4枚組の出席チケットを千円で買い、それを一講義につき一枚渡すことで出席とみなされます。チケットは講義中に担当者が回って回収をするという仕組みで、混雑を避けられる良い方法だなと感じました。今回の主な仕事は、名簿での出席者の所に丸印をつけるという作業でした。

授業見学の話に移りましょう。今回僕が主に見学したのは3人の方々です。まずは、ウクライナ人の男性。この方は日本語の教科書を見て勉強されていたのですが、僕はそれまで日本語の教科書というものを見たことがなかったため非常に気になっていました。内容は、文法(助詞の使い分け等)・リスニングというように英語の教科書と似ていました。

二人目は、インドネシアから技能実習生として来られた男性です。この方は意味が難しい単語も勉強されているほど日本語がとても上手で、講師の方とはほとんどフリートークのような形で授業を進められていました。6月ごろに祖国へ帰り日本企業に関わるそうです。

最後はミャンマー人の女性の方です。メインはフリートークで、分からない単語が出てきたら講師が説明する形式で、僕も一緒に参加して趣味などについて話しました。日本に来られてから2年だそうです、そう思えないほど日本語が上手でした。

今回の社会体験でまず思ったのはやはり、日本語をこんなにも熱心に、頑張って勉強したいと思う人がたくさんいるのだということですね。どの方も一生懸命に、そして楽しく日本語を学ばれていたように感じました。このような活動は今まで見たことがないものだったのでとても新鮮でした。改めて、ありがとうございました。



受付を手伝う上松さん(左端)

